

写真撮影は元気の源 地域のよさを伝えていきたい

元久留米市職員

池口隆さん (63歳)

平成23年3月定年退職

【いけぐちたかし】昭和25年福岡県生まれ。昭和48年福岡大学卒業後、城島町（現久留米市）役場入庁。総務課、税務課、教育委員会、産業課、企画課、文化スポーツ課などを歴任。平成23年に定年退職後は、校区まちづくり委員会の広報委員、酒蔵とエツ等を活かした観光を検討する会、ふるさとの作曲家細川潤一顕彰会などの活動にも参加する。



—池口さんが退職後の生活について、具体的に考えられたのはいつですか。

定年を迎える2年前に肺炎を患い、約1カ月入院しましてね。その時、これまで頭の中で漠然と考えていたことをもとに、具体的なプランを立てました。

—退職後は、どんな生活を送ろうと考えられていたのですか。

仕事で、地域の歴史・自然・文化などを保存・記録・伝えることを長年やってきましたので、退職後もそのようなことをボランティア活動として続けていきたいと考えていました。趣味の写真撮影も活かして、地域の自然や偉人のことを子どもたちに伝えていけたらいいなと。

その希望どおり、退職後は地元小学校の総合学習のゲストティーチャーとして招かれ、ふるさと自慢などの話をしています。そのため教材を探しに博物館などによく足を運びますよ。また、自宅近くにある高校カヌー部の練習場で写真を撮り、写真展を開催したりもしています。

—写真展は何回か開催されたのですか。

これまでに4回開催しています。1回目は国民文化祭の会場の一つとなったホールロビーで、会場イベントと連動させ「英国パブサイン物語写真展」を開催しました。2回目以降の写真展も地域のイベントを盛り上げようと、テーマを合わせて開催しています。

—写真展開催の経費は、どのくらいか

かったのですか。

展示場は共催という形で使わせてもらったので、使用料はかかっていません。ただし、プリント代はもちろん、ポスターやチラシ、案内ハガキなどの作成代は自前ですから、すべてを含めると1回あたり20万円前後の経費がかかりました。

—写真展を開催する楽しみは？

開催期間中、私はほとんど会場にいますので、来場者との会話が楽しみです。友人・知人の他、写真の被写体になってくれた方や私の写真自体に興味を持ってくれた方など、来場者にはノートに感想を書いていただきます。それを時々読み返すのですが、本当に喜んでいただいた気持ちも伝わってきて、写真を続ける励みになっています。だから、このノートは私の宝物なんですよ。

—池口さんが写真撮影を始められたきっかけは？

もともと旅行が好きで記念写真を撮って



近所の高校カヌー部を被写体に撮影した作品。
タイトルは「水面に映る夕日に向かって」

●1日のスケジュール

6:30	起床、新聞、朝食
9:00	パソコンメールチェック
10:00	【晴天時】田・畑・庭の手入れ 【雨天時】資料や写真の整理
12:00	昼食
13:00	資料や写真の整理
16:00	買い物（運転手として）
18:00	畑・庭の水かけ
19:30	夕食
20:00	リラックスタイム
21:00	散歩、入浴
22:30	就寝

ゲストティーチャーとして子どもたちに地域の自然や歴史を伝えている



英国の「パブサイン」も池口さんの撮影テーマの大きな柱



●1週間のスケジュール

月曜	本屋さんめぐり
火・水曜	午後ゴルフ練習 (河川敷コース：プレイ代 ハーフ1,500円)
木曜	河川敷ゴルフ場主催ゴルフ コンペ参加 (プレイ代のみ2,000円)
金曜	近郊をドライブ
土・日曜	各種イベント等写真撮影

いたのですが、本格的に始めたのは英国旅行でパブサインに出会ったことがきっかけでした。英国には独特のパブ（パブリックハウス）の文化があり、パブごとに個性的な看板（パブサイン）が掲げられています。そのパブサインの中に天然記念物の「カササギ」をモチーフとしたもの

があり、日英の文化を調べたら面白いのではないかと思いい、パブサインやカササギを写真のテーマとするようになりました。

——写真について、何か勉強を？
——専門書や雑誌を読んだり、地域で仲間たちと写真クラブを結成して、暗室技術を指導してもらったりしました。あとは、他の人の写真作品を見ることがとても勉強になるので、写真展や美術展によく行きますよ。

——写真撮影をする時、心がけていらっしゃることは何ですか？
——物語が見えてくるような写真を撮りたいと思っています。それから、何度も見たいなる、飾っておきたいくなる、人がほしがると写真が撮れたらいいなど。

——写真撮影の魅力は何でしょう？
——レンズを通じて被写体と向き合うことで、見えてくるものがあります。これまでの生活では見えなかった新しい視点を発見し、いろんなことに好奇心を持つようになりました。シャッターを押すということは、手先を使って、頭を使って、歩き回ることです。写真を撮ることが、私の元気の源だと思っています。

——退職後の生活で困っていることはありますか？
——特にありませんが、組織の人間と個人では、相手の対応がかなり違ってくることを実感しました。写真展を企画しても、施設利用や後援を受けるのに、個人ではなかなか受け入れてもらえないことがありましたから。

——退職後の生活を充実させるために、気をつけられていることは？
——退職前に入院を経験しましたので、健康づくりには注意しています。幸い近くに低料金でプレイできる河川敷ゴルフ場があり、仲間もたくさんできました。

——他にどのような活動をされているのですか？
——校区まちづくり委員会の広報としてコミユニティ紙の編集に携わっている他、地元の観光振興のため「酒蔵とエツ等*を活かした観光を検討する会」の副会長や、地元出身の作曲家を顕彰する会の事務局を務めたりしています。

——現役の地方公務員の方に、メッセージをお願いします。
——私は入庁3年目に福岡県庁に派遣され、実務研修をさせていただきました。また妻は、30歳代で子どもがいる身でしたが、英国の大学に留学し、ホームステイ先の家族とは20年以上経った今も交流が続いています。若い頃から視野を広げておいたこと、地域を、日本を外から見る機会を持たせていただいたことは、人生のあらゆる場面で役に立っています。チャンスを見逃さず、積極的に活かしてください。

有明海の平野部に生息する「カササギ」



——ありがとうございました。
——ありがとうございます。

*カタクチイワシ科の魚で、日本では有明海など一部地域にのみ生息している。